

I K U S E I

わくせい

2025 63



ARR

公益社団法人 競走馬育成協会

Association for Racehorse Rearing

CONTENTS

■巻頭言

「ごあいさつ」

- (JRA 馬事部生産育成対策室長 内藤裕司) ①
- 競走馬育成協会役職員人事異動 ②

■特 集

- ①第4回 競馬功績者表彰の受賞 ③
- ②生産育成牧場就業者参入促進事業 (BOKUJOB)
「BOKUJOB2025 メインフェア・関西フェア」 ④

■行 事

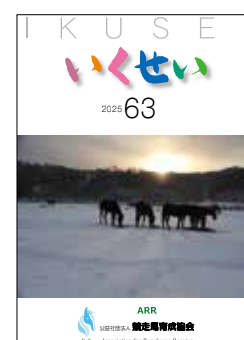
- ①2025年度「定時総会」を開催 ⑪
- ②2025年度 育成等に関する懇談会 ⑬

■事 業

- ①育成技術講習会 ⑭
- ②育成技術表彰事業 ⑮
- ③軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 ⑰
- ④競馬関連機材等有効活用事業 ⑱
- ⑤軽種馬経営高度化指導研修 (人材養成支援) ⑲
- ⑥軽種馬生産者等経営安定化 (飼料等高騰対策事業) ㉑

■お知らせ

- BTC からのお知らせ ㉑
- Racing Schedule 2026 (JRA) ㉒
- ダートグレード競走一覧 (NAR) ㉓
- 賛助会員のご紹介 ㉔



題字 元会長 小沢一郎
表紙写真 内藤律子

JRA が取り組む 『生産育成業務』について



JRA 馬事部生産育成対策室長
内藤 裕司

本年の3月より JRA 馬事部生産育成対策室長を務めております内藤でございます。

育成協会会員の皆様には JRA の生産育成業務へのご理解、ご協力いただき御礼申し上げます。

今回は我々が取り組んでおります生産育成業務についてご紹介させていただきます。

我々は、以前から実施されていた全国の市場で購買した一歳馬に2011年からは日高育成牧場で生産した“JRA ホームブレッド”も加えて、生産から一貫した育成業務に取り組んでいます。JRA ブリーズアップセールに上場した JRA ホームブレッドは17世代93頭を数えています。

生産から育成へといった一貫した業務に取り組むにあたり、一例として、現場で問題となっている“競走馬の生産および育成段階における高い損耗率”に我々も直面しています。以下にその詳細をお示します。

まずは、受胎が確認されてから無事に出産を迎えるまでの出産頭数 / 受胎頭数の割合は129頭 / 143頭 = 90.2%となり損耗率は-9.8%となりました。

比較的設備や獣医師などを含めた医療環境など充実した日高育成牧場においても（海外から報告されている -13.8%などと比較して高くはないものの）約1割の損耗を認め、計画的な牧場経営といった面からは大きな不安定要素となってくることを実感に伴い強く感じています。

また、無事に生まれたのちも、育成段階において何らかのトラブルに見舞われ、無事にセリへの上場・売却を迎えられない馬も一定数存在します。その割合は売却頭数 / 出生頭数 93頭 / 132頭 = 78.8%（売却手段が制限されるなど JRA 育成馬の特性により一般と比べ競走馬となるハードルは高くなるものと思慮されますが）と2割を超えており、出産段階以上の損耗率となり大きなリスク要因となっています。

我が国全体の損耗率を調べてみますと、出産頭数 / 受胎頭数の割合は8,479頭（受胎頭数）に対して7,740頭（出生頭数）で91.1%（⇔同 JRA : 90.2%）、さらに出走を迎えるまでには出生7,740頭に対して出走6,950頭（89.8.%）とそれぞれの段階で約1割の損耗を認めています。我々の生産育成業務においても損耗率においては、民間の皆様と同様もしくはそれ以上の影響を受けていることになります。

我々はこのように生産から育成へと一貫した生産育成研究、育成馬の購買や JRA ブリーズアップセールでの売却を通じて、この産業が抱える問題に正面から向き合っていく、現場に存在する課題を生産者・育成者の皆様と同じ立場で実感、共有しながら取り組みをすすめていくことで現実的で効果的な研究成果をあげられるものと考えています。こういった実践研究の中で得られた知見については“育成技術講習会”など様々な場で育成協会会員の皆様にもご紹介させていただいておりますので引き続きご活用いただければ幸いです。

一方で JRA が取り組んでいる生産育成業務につきましては、時代とともに求められる役割が変化してきています。以前は主な目的であった“競走資源の確保”といった項目については現在においては概ねその役割を果たしつつありますが、もう一つの大きな目標のひとつであった“新規馬主の獲得”については、JRA 育成馬を活用し実施している『育成馬を知ろう会』など活用方法を変化させながら引き続き大きな使命を担っています。JRA ブリーズアップセールにおける『情報開示への取り組みやわかりやすいセリの運営』等により“市場振興”においても一層の重責を果たしているものと考えております。

さらに近年においては、JRA 育成業務は“人材養成”においてもその役割が増してきています。JRA

に毎年採用される馬取り扱い技能職員の多くは日高・宮崎育成牧場からその職歴をスタートし、生産育成の現場で研鑽を積み一部の者は馬事普及など様々な分野で活躍する一方、育成牧場に残り（戻り）研究・技術開発に携わる者も少なくありません。また、近年ではその中から、BTC や JBBA の育成調教技術者養成研修、生産育成技術者研修の教官に登用される者も多く、生産・育成の現場で働く人材の養成に大きく貢献しています。

そして、今後も我々が目指していくこととしては“生産・育成の現場に寄り添った競馬主催者であること”であると考えます。JRA が実施している生産育成業務に携わった騎乗者、獣医、装蹄職員のみならず育成牧場で勤務する職員は、各市場における育成

馬の購買や、JRA ブリーズアップセールに向けた生産、育成、また売却に携わることにより競走馬市場における”生産者” “上場者” “や” 購買者 “として問題点を自身の立場として捉え、現場の皆様と共有したうえで有効な意見交換をすすめながら改善策を図っていくことができると考えており、JRA 全体に対しても大いにはたらきかけを行っていくべき立場にあると認識しております。

今後も皆様におかれましては JRA の生産育成業務に一層のご理解とご協力をお願いいたします。

簡単ではございますが、JRA が取り組んでおります生産育成業務のご紹介と私のご挨拶とさせていただきます。

◆ 2025 年度 競走馬育成協会役職員人事（3 月）

「役員人事」

【退任】 理事 宮島 成郎

宮島理事 退任ごあいさつ

2025 年 2 月の定時総会を持ちまして競走馬育成協会の理事を退任することになりました。これまで、多くの関係者の皆様に支えられて職務に当たることが出来ましたこと、この場をお借りしまして御礼を申し上げます。競走馬の育成業界をはじめ、競馬産業全体はこれまでも様々な課題に直面するたびに、関係者皆様方が力を併せて取り組んできた姿はとても頼もしかったという印象です。これからの競馬界そして育成協会の発展を祈念しております。

「職員人事」

【退任】

上席調査役 成田 正一

業務部長 小野 圭一

※その他は変わりなし。

【就任】

◎上席調査役 田邊 草平

◎業務部長 神谷 高弘

第4回 競馬功績者表彰の受賞

第4回競馬功績者表彰

柏木 務 理事（九州支部長）が 農林水産大臣賞を受賞！！

他に横山典弘氏（騎手部門）、松山康久氏（調教師部門）ら6氏が受賞

2025（令和7）年4月25日（金）、第4回競馬功績者表彰において、競走馬育成業界の分野から、当協会の柏木理事が選出され、江藤農林水産大臣（当時）から賞状を授与された。

競馬功績者表彰は、我が国の畜産振興や国家・地方財政に寄与する競馬産業の活性化・馬産地の振興を図るため、調教師、騎手、競走馬生産農家等の競馬関係者に対し農林水産大臣賞を授与するものである。



江藤農林水産大臣(当時)から表彰状が授与された

柳田英子氏（柏木氏御息女）のコメント

「この度は、父 柏木務が栄えある競馬功績者賞を賜り、身に余る光栄と嬉しさに家族一同、深く感謝申し上げます。私が物心ついた頃、我が家には繁殖牝馬が5頭くらいいたのでしょうか…。両親は、朝早くから夜遅くまで馬の世話をしていました。特に父は根っからの馬好きで、どんなに大変なことがあっても常に前向きな姿勢で楽しみながら、馬と向き合っていました。私はそんな両親の姿を見て育ってきました。振り返ると父は昭和56年、念願でもあった馬主資格を取得すると、最初の所有馬カシノエイト号が活躍し、ようやく牧場経営も軌道に乗り始めました。

そして、平成元年には種牡馬としてシンウルフ号を導入すると、九州産馬を代表するような活躍馬を多く輩出することができました。さらに、平成6年には強い馬づくりを目指して育成牧場を設立、生産から育成まで一貫して自分のスタイルで馬づくりに励んでいました。

今回の受賞は、馬一筋の人生を歩み、一から自分の力で牧場を築き上げ、また、九州産馬の発展に貢献し続ける父の努力と父個人だけでなく、これまでの九州の馬産地の皆様の取り組みを評価していただいたものだと感じております。

今後は私も馬の仕事に携わる者として、父が成し遂げてきたことを胸に刻み、九州産馬の更なる資質向上と持続可能な生産体制の確立を目指していくとともに、このことを若い世代に繋いでいくことが役目だと考えております。

引き続き、関係各位のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。」

柏木務氏プロフィール



記者会見で質問に答える柏木氏

1945（昭和20）年1月 鹿児島県鹿屋市出身。昭和42年から57年まで串良軽種馬生産育成組合での勤務を経て、昭和58年に柏木牧場（生産）を設立。その後、平成6年に柏木競走馬トレーニングセンター（育成）を開業する。

また、昭和52年に地方競馬馬主登録、昭和55年に日本中央競馬会馬主登録を取得。これまで、自ら生産・育成した馬を中心に、中央・地方の競馬場で多数の所有馬を走らせてきた。

現在、（公社）競走馬育成協会理事、（公社）日本軽種馬協会理事、（一社）九州馬主協会常務理事、九州軽種馬協会会長の職に就いている。

過去の受賞者（敬称略）

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| ■調教師：尾形 充弘・藤沢 和雄・橋田 満 | ■騎手：武 豊・柴田 善臣・宮下 瞳・佐々木 竹見 |
| ■生産者等：木村 貢・高橋 秀昌・中島 滋 | ■その他：土川 健之・岡本 金彌・仲田 和雄 |

生産育成牧場就業者参入促進事業 (BOKUJOB) 「BOKUJOB2025メインフェア・関西フェア」

公益社団法人競走馬育成協会 (ARR)、公益社団法人日本軽種馬協会 (JBBA)、一般社団法人日本競走馬協会 (JRHA)、公益財団法人軽種馬育成調教センター (BTC) および日本中央競馬会 (JRA) の5団体で構成する BOKUJOB 事務局は、本年8月で設立満17年を迎えました。

今回の特集では、BOKUJOB の中核イベントである「BOKUJOB2025メインフェア」および「BOKUJOB2025関西フェア」について報告します。



◎ BOKUJOB2025 メインフェア

9月20日 (土)・21日 (日) の2日間、JRA 東京競馬場フジビュースタンド1階イーストホールにて、競走馬の牧場就業に関心を持つ若者を対象としたイベント「BOKUJOB2025メインフェア」が開催されました。

本フェアは、2016年より毎年6月の安田記念 (G I) 施行週に開催されてきましたが、春の G I シーズンは競馬場来場者が多く、年々増加する相談者数に対応する会場スペースの確保が困難となっていました。コロナ禍による中断を経て再開された直近2年間も、混雑が課題となり、参加牧場からは「来場者が多く、会場が手狭だった」との声も寄せられていました。

こうした状況を踏まえ、事務局では「静かでゆとりある相談環境」の実現を目指し、開催時期と会場の見直しを検討。JRA 東京競馬場の協力のもと、比較的来場者が少なく、会場スペースの拡張も可能なパークウインズ (場外発売) 開催日である9月に実施することを決定しました。場外発売日での実施は2014年以来、11年ぶりとなります。

両日とも好天に恵まれ、高校生・大学生を中心に155名 (前年254名) の相談者が来場。保護者などの同伴者は65名 (前年126名)、その他の見学者を含め、総来場者数は235名 (前年486名) となりました。来場者数は前年を下回ったものの、BOKUJOB や牧場の仕事に対する関心の高さは引き続き感じられる結果となりました。



盛況であった各相談エリア

本年のメインフェアでは、相談エリアのスペース確保に加え、相談者と参加牧場・団体との面談機会を最大限にすることを目的に、過去2年間設置していた「Web 相談コーナー」を廃止しました。

また、昨年に引き続き BOKUJOB 事務局員が牧場やその仕事について詳しくない相談者に説明を行う「交流エリア」を設置。また、各ブースの混雑状況を把握しながら、相談者の希望に応じて適切な牧場・団体へ案内する「案内デスク」も設置して、面談の効率化に努めました。その結果、2日間で計581件の相談が行われました。



「就業相談エリア」には、北海道・関東・関西から総合牧場、生産牧場、育成牧場など25牧場（前年27牧場）が参加。仕事内容や採用方法、インターンシップなどについての相談に対応し、相談者は積極的に質問しながら熱心にメモを取る姿が見られました。

「研修相談・進路相談エリア」には、JBBA、BTC、公益社団法人日本装蹄協会、ひだか・ホース・フレンズ、静内地区求人牧場紹介（JA しずない）、北海道静内農業高等学校の6団体が参加。研修制度や進路に関する相談が行われました。



JBBA および BTC のブースでは、来春入講試験の終了後にフェアが開催された影響で相談件数は例年より減少しましたが、今年4月から自己負担が減額されたこともあり、来夏の入講試験を見据えた高校生・大学生が保護者とともに訪れ、熱心に質問する様子が見られました。また、合格発表直後の開催となったことから、研修コース合同見学会や体験イベントに参加した来場者が、事務局員に「合格しました！」と笑顔で報告する場面もありました。



ひだか・ホース・フレンズのブースには、日高の牧場での就業を目指す社会人が短期研修の相談に訪れ、静内地区求人牧場紹介（JA しずない）のブースには、生産牧場での就業を希望する高校生から社会人まで幅広い層の相談者が訪れ、担当者の説明に耳を傾けていました。

北海道静内農業高等学校の面談ブースでは、牧場就職を視野に入れた小中学生と保護者が進学について熱心に相談する姿が見られました。

また、受付付近には「競走馬のふるさと案内所」を設置。多くの来場者が出展牧場や研修機関のパン

フレット、「牧場見学のルール＆マナー」などを手に取っていました。



事前参加申込登録の実施

これまで、相談者はフェア当日に受付票（エントリーシート）を記入していましたが、記入に時間がかかり、受付の混雑を招く一因となっていました。そこで、事前に申込みフォームから必要事項を入力する Web システムを導入し、参加登録をオンラインで完了できるようにしました。

当日は、登録完了後に発行された QR コードを提示することでスムーズに入場できる仕組みを整えました。

今回の事前参加申込者は119名で、そのうち82名（全相談者の半数以上）が QR コードを利用してフェアに参加しました。

この取り組みにより、受付の混雑緩和と相談活動の円滑化に一定の効果が見られました。

今後も、より快適で効率的な相談環境の実現に向けて、さまざまな工夫や仕組みの導入を検討してまいります。



SNS による情報発信の強化

メインフェアにおける相談者数は昨年に比べて減少したものの、牧場での就業に対して高い意欲を持つ参加者が多数来場されました。その背景には、SNS を活用した情報発信の強化が一因として挙げられます。

特に X（旧 Twitter）では、昨年度に引き続き、開催告知や参加牧場・団体の紹介などの投稿を毎日行い、継続的な情報提供に努めました。さらに、Instagram や Facebook においても開催告知の回数を増やすなど、発信力の強化を図りました。実際に、参加のきっかけとして SNS の閲覧を挙げた来場者も多く、SNS の有効性と重要性を改めて示す結果となりました。



牧場・団体からのご意見

メインフェアに参加された牧場・団体の皆様から、相談者数について、

- ・競馬開催のない9月の競馬場開催でしたが、予想以上に多くの来場者があり、良い印象を持ちました。
- ・パークウインズ開催ながら、昨年と迫る盛況となりました。
- ・落ち着いた雰囲気の中で、対応できたのが良かったと感じています
- ・開催日ではないことによる来場者数への影響を懸念していましたが、結果的に昨年と同程度の方々と面談することができ、大変ありがたく感じています。

一方で、

- ・来場者数はやや少なく感じられ、偏りが見られま



した。

- ・開催時期の影響もあり、全体としては来場者数がやや少なく感じられました。

とのご意見がありました。また相談者については、

- ・来場者の本気度が高く、「なんとなく来た」という方は少なく、目的意識を持った方が多い印象でした。
- ・面談数は昨年よりやや減少しましたが、今回のイベントを目的に来場された方が多く、真剣度の高い相談者が増えている印象でした。
- ・パークウインズ開催ということもあり、来場者はメインフェアを目的とした方が中心で、就職に対するビジョンが例年よりも明確な印象でした。

との高い評価がありました。また開催時期や開催場所については、

- ・9月開催だったため、例年の6月開催時のように、面談後に8～9月のインターンへつなげる流れが作れず、時期的な影響を感じました。
- ・高校生の採用時期と重なるため、6月開催への変更を検討していただきたい。
- ・9月開催では高校3年生のインターン時期に間に合わず、夏休み前の開催が望ましい。
- ・競馬開催日の場合、目的外の来場者も多く、今回は、来場者の目的が明確で混雑も少なく、落ち着いた対応ができた。
- ・エリアが広がったことで、ブースで複数組の対応が可能となった。
- ・前回よりスペースが広く確保されていたことで、落ち着いて話ができる環境となった。

とのご意見がありました。

開催時期を変更した初年度に寄せられたこうしたご意見・ご感想は、フェアの開催時期の定着化や参加者拡大に向けた今後の企画・運営において非常に貴重な指針となります。参加牧場・団体の声に耳を傾けながら、牧場就業を希望される方々にその魅力をより効果的に伝えられる機会づくりを目指してまいります。

◎ BOKUJOB2025 関西フェア

11月8日(土)・9日(日)の2日間、JRA 京都競馬場ステーションサイド3階特設エリアにて、「BOKUJOB 2025関西フェア」が開催されました。昨年の5年ぶりの再開に続き、今年も秋季の京都競馬場での開催となりました。

秋季開催とすることで、2027年以降に卒業予定の

高校2年生や大学3年生が、進路選択の早い段階で牧場就業への関心を高める機会となり、今後の「牧場で働こう体験会」や「研修コース合同見学会」といったBOKUJOB イベント、牧場でのインターンシップへの参加につながることが期待されます。

当日は、関西の育成牧場に加え、北海道に拠点を持つ総合牧場や生産牧場など、計18牧場と4団体、合計22の牧場・団体が会場に参加しました。



広く静かな相談会場

本年の関西フェアでは、昨年同様にブース間の距離を広く確保し、参加者の誘導もスムーズに行うことができました。会場は、メインフェアのような占用エリアではなく、競馬場入場者も通行する場所での実施となりましたが、終始静かで落ち着いた環境の中で相談が行われました。

運営面では、メインフェアと同様に「案内デスク」を設置し、事前参加申込登録を導入。また、会場内を「就業相談エリア」「研修相談・進路相談エリア」「交流エリア」の3つに分け、円滑な運用に努めました。案内デスクの活用により、相談者は希望する牧場・団体の担当者とスムーズに面談することができました。



2日間を通じて、関西在住者を中心に120名（昨年109名）の相談者が来場し、延べ497件（昨年375件）の相談が行われました。1人あたりの平均相談件数は4.1件（昨年3.7件）と増加しており、牧場就業への関心の高さがうかがえました。メインフェアと比較して相談者の回転が早く、参加者の満足度も高かったと推察されます。

「就業相談エリア」では、参加牧場の担当者がパンフレットやPCを活用し、視覚的にわかりやすい説明を交えながら個別面談を実施しました。相談者が重なった際には、複数の相談者への対応が可能となるよう交流エリアを開放するなど、事務局でも柔軟で円滑な運営に努めました。





「研修相談・進路相談エリア」には、JBBA、BTC、静内地区求人牧場紹介（JA しずない）、北海道静内農業高等学校の4団体が出展。JBBAおよびBTCでは、研修費用の大幅な減額もあり、来年以降の受験を検討する高校生・大学生とその家族を中心に、多くの相談者が訪れました。

静内地区求人牧場紹介（JA しずない）では、日高地方の地域情報に加え、関西フェアに参加できない牧場の求人情報も提供。北海道静内農業高校のブースには、進学を真剣に検討する中学生の姿も見られました。

研修などを通じてスキルを身につけた人材は、牧場からのニーズも高く、今後も研修相談・進路相談エリアのさらなる充実を図っていきたいと考えています。



SNS による情報発信の継続

関西フェアにおいては、X (旧 Twitter)、Instagram、Facebook などの SNS を活用し、開催告知や参加牧場・団体に関する情報発信を行いました。その結果、相談者数の増加など、一定の成果を確認することができました。

今後もこれらの SNS を通じて、牧場での就業を希望される方々への情報提供と支援を継続するとともに、BOKUJOB の活動に対する認知度のさらなる向上に努めてまいります。



牧場・団体からのご意見

関西フェアに参加された牧場・団体の皆様から、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

- ・来場者の熱意が感じられ、対応した人数も多く、非常に満足しています。
- ・3名体制で対応しましたが、ほぼ休憩のない状況で、対応可能な上限は20名程度と感じました。
- ・両日ともに多くの来場者があり、会場全体に活気がありました。
- ・例年通りスムーズに進行し、運営面でも問題はありませんでした。
- ・メインフェア同様、非常に盛況であり、イベントへの関心の高さを実感しました。

また、相談者に関しても、以下のような前向きな評価が寄せられています。

- ・予備知識を持った方が多く、馬産業への就業意欲が強く感じられました。
- ・前回と比較して、業界理解のある来場者が増加した印象です。
- ・若年層の参加が目立ち、有意義な交流ができました。
- ・真剣に業界で働きたいという意志を持った方が多く、しっかりと面談を行うことができました。

一方で、「採用に直結するケースが少ない」という声もあり、今後は牧場・団体や相談者それぞれのニーズにより的確に応えられるよう工夫が求められます。牧場就業の魅力をより多くの方に伝えられるような機会づくりを目指し、情報発信の方法や接点の持ち方についても見直していきたいと考えています。



以上のとおり、今年度のメインフェアおよび関西フェアは盛況のうちに終了いたしました。ご参加いただいた牧場・団体のご担当者の皆様には、誌面を通じて心より御礼申し上げます。

BOKUJOBでは今後も、「牧場で働こう見学会（関東・関西）」「サポートデスク」「牧場で働こう体験会」「研修コース合同見学会」などの各種イベントに加え、「Web フェア」や「Web 相談会」といったオンライン活動を、年間を通じて全国各地で展開してまいります。

また、牧場での就業に関心をお持ちの方々に向けて、BOKUJOB.com、SNS、YouTube チャンネル等を活用し、情報発信を強化することで、牧場の人材確保および就業支援に努めてまいります。

関係者の皆様におかれましては、今後ともBOKUJOBの活動に対するご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2025 年度「定時総会」を開催

2025年度定時総会が、本年2月14日（金）に実施されました。

冒頭、大平会長より、関係各所に対する日頃からの協会運営への協力への感謝が述べられるとともに、競走馬の育成業界が様々な物価高や国内全体の慢性的な人手不足の影響を受けている厳しい状況も伝えられ、特に人手不足の点については、牧場への就業が定着するように努力していかなければならないことが伝えられました。

次に、農林水産省競馬監督課 姫野課長より、コロナ禍を乗り越えた競馬業界の逞しさを讃えるとともに、競馬業界が特に育成・生産の現場が就職先としても選ばれるよう一層の取り組みに期待している旨、また日本中央競馬会 菊田馬事担当理事（当時）からは年々日本の競走馬調教育成技術が向上をしていることへの賛辞と暑熱対策等を含め競馬の持続的な発展に向けて競馬サークル全体で取り組んで行くことが述べられました。

この後、西尾総務部長より来賓の紹介があり、続いて定款第18条に基づき沖崎誠一郎氏が議長に選出され、以下の議案が審議されまして、原案とおり承認となりました。



第1号議案「2024年度事業報告及び2024年度財務諸表について」

第2号議案「2025年度会費等の額及び徴収の方法について」

第3号議案「理事及び監事の選任について」

※別表参照

第4号議案「役員の報酬等の支給に関する規程の改正について」

この他に、総会へ出席された会員より競走馬育成業界の現状に関する説明や業界の処遇改善を求める意見が出されました。

※ 2025 年度 役員一覧（定期改選により重任）

役職	氏名	備考
理事	大平 俊明	会長
理事	和田 信也	副会長 (常務理事専任)
理事	中内田克二	副会長
理事	荻野 豊	
理事	飯田 正剛	
理事	岡田 紘和	
理事	小鹿 俊秀	
理事	沖崎誠一郎	
理事	柏木 務	
理事	織田 信美	
監事	五島 崇	
監事	岩崎 幸治	

※宮島成郎理事は総会をもって退任されました。

2025 年度 育成等に関する懇談会

平成12年度より開催されている当協会と JRA との「育成等に関する懇談会」は、今年も 9 月 26 日（金）に、東京・港区の JRA 本部にて開催されました。JRA からは、伊藤幹 馬事担当理事、馬事部長、生産育成対策室長ほか馬事部生産育成担当職員、競走馬育成協会からは、大平会長をはじめとした協会理事と担当職員が出席しました。

以下、懇談会の概要をお伝えします。

開会挨拶

JRA 伊藤馬事担当理事より、以下の挨拶がありました。

- ・貴協会の柏木理事の競馬功績者表彰受賞は誠に名誉なことであり、お祝いを申し上げます。
- ・育成業者が中央競馬の質の高い競走を支えていることに改めて感謝を申し上げます。
- ・育成業界はもちろん、競馬サークル全体の人手不足の打開に向け、競馬関係者で力を併せて組織横断的に人材の確保に努力していきたい。

続いて当協会 大平会長からは以下の挨拶がありました。

- ・JRA における競馬サークル全体の人材確保に向けた取り組み「UMAJOB」と、これまで当協会が中心となって実施している「BOKUJOB」とを上手く連携させながら、人材不足解消に向けて努力して参りたい。
- ・会員からは様々な意見や提案があり、今日その一端をお伝えして参るので、JRA からアドバイスなどをいただきたい。

JRA からの報告事項

JRA からは、①「JRA 育成馬売却結果」②「セリ市場の動向」③「その他」の報告があり、③「その他」において今年度は、(1)「軽種馬牧場 OJT 支援事業」についての説明がありました。

主な内容は以下のとおりです。

ア. 事業概要

地方競馬全国協会の2026（令和8）年度 競走馬

生産振興事業の軽種馬経営高度化指導研修事業の一環としての実施に向けて調整中。

「BTC 育成調教技術者養成研修」または「JBBA 生産育成技術者研修」の受験者のうち、選考に漏れたものの、試験において上位の評価を受けた人材に対して、民間牧場に就業した上で OJT（就業現場での実地研修）を通じた研修機会を提供するため、牧場・受講者の双方を支援する制度。

イ. 補助内容他

- ・対象牧場 当協会または JBBA の会員であり、BTC または JBBA の研修カリキュラムに準じた内容の OJT を実施できる牧場を「OJT 対象牧場」として認定。
- ・研修機関 令和 8 年 4 月から 1 年間
- ・補助内容 実施した牧場に対して月数に応じて技術指導料を支給。

支給額は最大で1,500,000円（125,000円／月×12ヶ月）。
※受入人数に関わらず、1 牧場あたりの上限は年間 1,500,000円

研修終了後に報告書を提出し、事業主体（当協会または JBBA）による承認後に指導料が支給されるもの。

競走馬育成協会からの要望と提案事項

1. 実施中の当協会の事業について

現在、実施している以下の主な事業について要望や提案を行ないました。

① 育成技術表彰

2024年より一律100,000円支給となった当事業は JRA による助成金によって成り立っているところであり、単価の維持と今後の対象レースの拡大を要望しました。JRA からは、事業の重要性への認識とともに、助成の維持・拡大に向けて予算措置も含めて力を尽くすとの見解が示されました。

② 利子補給事業

金利が上昇傾向にある現状においても利用が見込まれることから、今後も事業が安定的に実施出来るよう要望するとともに、基金の運用状況についても質問しました。JRA からは、昨年の交付実績が基金

運用益を上回ったことから、一層効率的な実施に努める必要があるとの説明がありました。

③ 競馬関連機材等有効活用事業

本事業は、牧場が独自で購入することが難しい機材を入手する機会でもあることから、引き続き一台でも多くの機材の提供がされるよう、関係各所への働きかけを要望しました。JRA としては、機材確保に向けて事務レベルでの周知にも協会と双方で努力していきたいとの考えが示されました。

④ 飼料等高騰緊急対策事業

諸物価の高騰が続くなか、厳しい状況におかれる育成牧場経営への支援策として当事業の継続を要望しました。JRA としては、飼料価格等は高いながらも安定していることから、緊急対策である本事業は終了し、今後は別の方法で支援を検討する方針とのことでした。

⑤ 海外派遣研修事業について

短期研修については、昨年までは物価等の状況から最低催行人員に達しなかったため、本年は経費の補助率を見直して募集したところ、定員の倍を越す申込みがあったことから、より多くの者に研修機会が与えられるよう、予算配付への配慮を求めたところ、JRA からは理解が示されました。

2. その他の要望と提案

① 人材確保について

まず、競馬学校厩務員課程の募集要項に、「牧場経験」についての記述を求めてきたところ、今般それが反映されたことに謝意を述べました。これに加えて、牧場経験3年以上の者には調教師会からの修学補助も行われることになり、厩舎従業員を目指す者が一時的であっても牧場での育成業務に携わる契機になることが期待されます。

人材不足の問題については、牧場のみならず競馬サークル全体の問題であり、競馬の永続性にも影響しかねない問題であることから、今後にも必要に応じて関係者の意見交換の場を設けるよう要望しました。

JRA からは今後も、様々な案件に柔軟に対応していく旨の発言がありました。

② 動物福祉について

馬を使った祭礼・祭事が馬への虐待にあたるとして、NGO 団体が警察に告発状を提出したことにより中止になった事例について情報提供をしました。一部の動物愛護団体の活動は、競馬関係者にとっても決して対岸の火事ではなく、競馬の円滑な施行のためには、このような問題にも対処しなければならな

い場面も想定されると付言しました。

JRA からは、競馬サークルとしても放置出来ない問題であり、引き続き情報の共有をお願いしたいとの言がありました。

③ 南関東競馬場における外国人雇用について

南関4場においては、外国人厩舎従業員の採用基準が厳しいことから、現在の就労者数は2名にとどまっています。しかしながら、深刻な厩舎従業員不足から、他地区競馬場や牧場における外国人従業員の実態の調査が開始された模様です。遠くない先に南関4場への外国人の雇用の門戸が広がる可能性があることから、JRA に対して育成牧場等からの人材流出を強く危惧していることとともにその危機感を伝え、今後の動向に関する情報共有を要望しました。

3. BOKUJOB 活動状況報告

メインフェアを、利用者及び出展者の満足度向上を企図して、初めてパークウインズ（東京競馬場）で開催したことをはじめ、これまでの状況を報告しました。



育成技術講習会

2024年

育成技術講習会はJRA、BTC および当協会の3団体共催での講習会として、以下の通り開催しました。会員の皆様より好評をいただきました。また、各地区で不定期に開催されている講習会についても地区ごとに案内させていただきました。

開催地区	開催日時	開催場所	演題／講師
北海道	6月20日	新ひだか町公民館	育成馬の栄養管理／JRA 日高育成牧場 松井 朗 氏
	18:00～19:30		競走馬の暑熱対策について／JRA 日高育成牧場 大村 一 氏
東北	9月5日	八戸家畜市場	「強い馬づくり」のための放牧管理
	13:30～15:00		JRA 日高育成牧場 松井 朗 氏
九州	10月1日	南九州獣医学拠点 (鹿児島県曾於市)	「強い馬づくり」のための放牧管理
	13:30～15:00		JRA 日高育成牧場 松井 朗 氏
関西	11月20日	JRA 栗東 TC	馬のバランスを起こす
	13:00～14:00		JRA 馬事公苑 戸本一真 氏
関東	11月27日	JRA 美浦 TC	馬のバランスを起こす
	13:00～14:00		JRA 馬事公苑 戸本一真 氏・佐渡一毅 氏

2025年

2025年度の開催については11月1日現在で以下の通りの開催を実施、予定しておりますが、主催者の都合により変更となる場合があります。実施の有無および予定の変更については、随時協会 HP を通じてお知らせします。

開催地区	開催日時	開催場所	演題／講師
東北	9月4日	八戸家畜市場	英国・愛国における馬づくり
	13:30～15:00		JRA 日高育成牧場 竹部直矢 氏
九州	9月30日	南九州獣医学拠点 (鹿児島県曾於市)	英国・愛国における馬づくり
	13:30～15:00		JRA 日高育成牧場 竹部直矢 氏
北海道	10月8日	新ひだか町公民館	英国・愛国における馬づくり
	18:00～19:30		JRA 日高育成牧場 竹部直矢 氏
関西	12月3日	JRA 栗東 TC	セルフキャリッジとは ～正しくバランスを整える～
	13:00～14:00		JRA 馬事公苑 戸本一真 氏
関東	12月17日	JRA 美浦 TC	セルフキャリッジとは ～正しくバランスを整える～
	13:00～14:00		JRA 馬事公苑 戸本一真 氏

育成技術表彰事業

1. 育成技術表彰事業について

平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われ、平成31年度（令和元年度）にはリステッド競走が新たな対象となりました。

平成20年度から実施していた重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰は、来年度以降は総会において執り行われる予定です。

2. 令和6年度の表彰事業について

- (1) 令和6年度の表彰件数は、対象565競走のうち351競走でした。該当率については、特に3歳新馬競走で88.9%、2歳重賞（含交流）・リステッド競走で80.0%と高く、対象競走全体でも62.1%と高い水準を維持する結果となりました。

- (2) 令和6年度の褒賞金は、3歳以上OP競走についても助成金による褒賞金に変更され、一律10万円が支給されました。

3. 令和7年度の実施について

- (1) 表彰要件等については昨年度から引き続き一律10万円が支給されることになりました（表1）。
- (2) 令和7年度の表彰件数の状況は、11月3日現在対象450競走のうち288競走が該当しています。該当率については、2歳新馬競走で82.6%、2歳重賞（含交流）・リステッド競走で54.5%、対象競走全体でも64.0%と高い水準を維持する結果となっています。

表1. 令和7年度からの表彰要件について

種 目		表彰要件	賞 金
1. 新馬競走	2歳新馬競走	満1歳になる年度の9月1日～12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した正会員	一律 10万円
	3歳新馬競走		
2. 2歳重賞競走等 (1) 2歳重賞競走 (2) 2歳重賞指定交流競走（地方競馬施行） (3) 2歳リステッド競走			
3. 障害重賞競走		継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入厩後42日以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した正会員	
4. 平地重賞競走等（2歳限定競走を除く） (1) 平地重賞競走 (2) 平地リステッド競走		トレセン等入厩直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入厩後30日以内に優勝した馬を育成した正会員	
5. 1～4以外の平地オープン競走（2歳及び3歳限定競走を除く）			

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあっては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。

R6	3歳限定を除く3歳馬以上のOP	25勝 / 56R	44.6%
	3歳馬以上の重賞	39勝 / 115R	33.9%
	3歳馬以上のリステッド	31勝 / 62R	50.0%
	2歳重賞・リステッド（含む交流）	16勝 / 20R	80.0%
	障害重賞	1勝 / 10R	10.0%
	3歳新馬	40勝 / 45R	88.9%
	2歳新馬	199勝 / 257R	77.4%
	計	351勝 / 565R	62.1%

R7	3歳限定を除く3歳馬以上のOP	25勝 / 50R	50.0%
	3歳馬以上の重賞	44勝 / 100R	44.0%
	3歳馬以上のリステッド	25勝 / 52R	48.1%
	2歳重賞・リステッド（含む交流）	6勝 / 11R	54.5%
	障害重賞	0勝 / 8R	0.0%
	3歳新馬	36勝 / 45R	80.0%
	2歳新馬	152勝 / 184R	82.6%
	計	288勝 / 450R	64.0%

令和7年11月3日現在

2025 年度 2 歳重賞競走の施行競馬場における表彰

日付	曜	場	回	競走名	G	馬名	性	会員 番号	牧場名	プレゼンター
7/20	日	函館	第57回	函館 2歳ステークス	Ⅲ	エイシンディード	牡	—		岡田紘和 理事
8/24	日	新潟	第45回	新潟 2歳ステークス	Ⅲ	リアライズシリウス	牡	—		沖崎誠一郎 理事
9/6	土	札幌	第60回	農林水産省賞典札幌 2歳ステークス	Ⅲ	ショウナンガルフ	牡	1056	ノーザンファーム	大平俊明 会長
11/15	土	京都	第60回	デイリー杯2歳 ステークス	Ⅱ	アドマイヤクワッツ	牡	1056	ノーザンファーム	中内田克二 副会長

2025年



2025年9月6日（土）札幌競馬場
第60回農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）
優勝馬 ショウナンガルフ（牡）
表彰会員名【1056】ノーザンファーム
プレゼンター：大平俊明 会長



2025年11月15日（土）京都競馬場
第60回デイリー杯2歳ステークス（GⅡ）
優勝馬 アドマイヤクワッツ（牡）
表彰会員名【1056】ノーザンファーム
プレゼンター：中内田克二 副会長

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機械、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対して利子補給を行うものです。

本事業における貸付対象は、大きく以下の3種類に分類されます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵およびその他協会が認める生産育成施設の改良、造成または取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設およびその他協会が認める生産育成用機械の改良、造成または取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金

本事業は、平成5年より国が実施する農業近代化資金制度に準じた形態で実施していますが、平成22年までは9件の利用実績にとどまっていた。

しかし、長引く低金利時代を設備投資の好機と捉えてか、現在20案件に交付しています。今般、金利は上昇基調にあるものの、令和7年度もすでに1件の申請があり、下半期から交付の予定です。

これまで利用実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、日高信用金庫

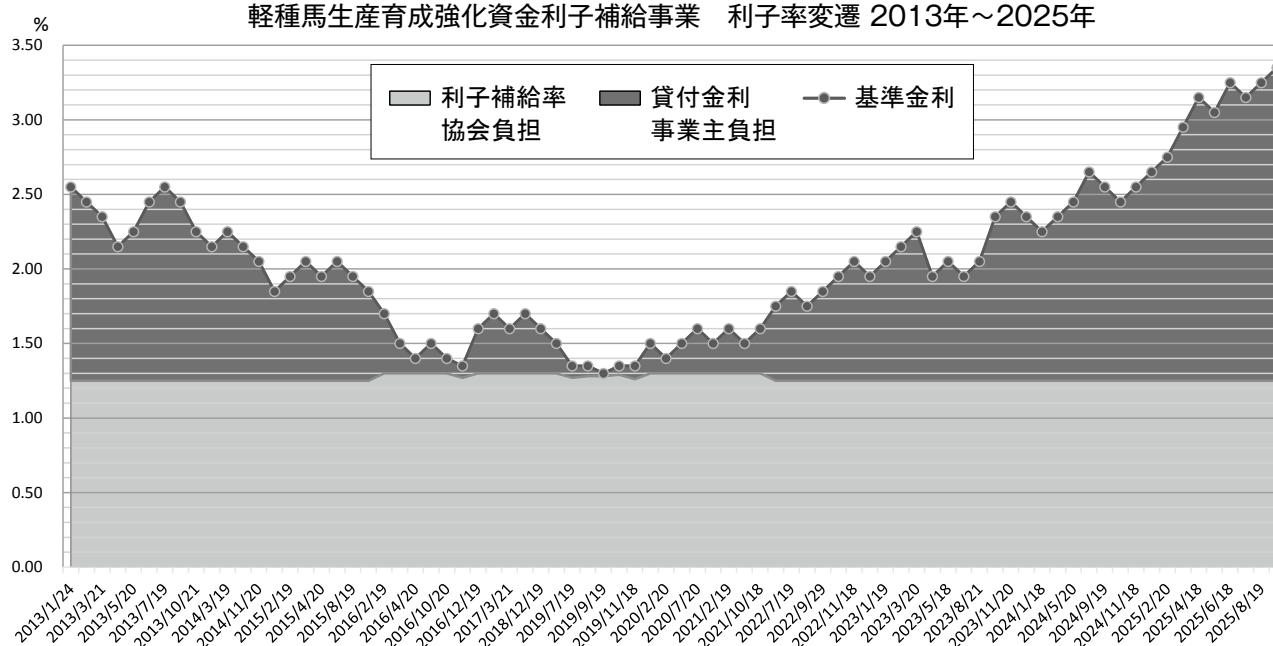
本店営業部ならびに静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会、滋賀銀行八日市東支店および関西みらい銀行信楽支店があります。

本事業のご利用を検討されている会員は、協会業務部までご連絡ください。

●融資状況（2025年11月1日現在）

承認年	地区	承認額(千円)	基準金利	利子補給	貸付金利
2017年	北海道	144,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	300,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	43,000	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	80,000	1.60%	1.30%	0.30%
2018年	北海道	85,000	1.60%	1.30%	0.30%
2019年	関東	100,000	1.50%	1.30%	0.20%
	関東	25,900	1.35%	1.28%	0.07%
2020年	関西	100,000	1.60%	1.30%	0.30%
2021年	北海道	10,000	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	6,500	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	16,000	1.50%	1.30%	0.20%
2022年	北海道	96,780	1.75%	1.25%	0.50%
	北海道	50,000	1.75%	1.25%	0.50%
	北海道	100,000	2.05%	1.25%	0.80%
2023年	北海道	40,960	2.05%	1.25%	0.80%
	関西	220,000	1.25%	1.25%	0.00%
	関西	80,000	1.54%	1.25%	0.29%
	関東	50,000	2.35%	1.25%	1.10%
2024年	関東	150,000	2.65%	1.25%	1.40%
2025年	関東	21,500	3.15%	1.25%	1.90%

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利率変遷 2013年～2025年



競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減して経営の安定化を図ることを目的に、平成15年より JRA および関連団体で使用を取りやめた競馬関連機材等について提供を受け、会員への再利用を斡旋（有償、無償）しています。

令和7年度においても10月に10件の募集が実現し、すべて会員に配付されました（一部応募数が募集数を上回る機材の配付については、監事立会いのもとで厳正なる抽選を実施し、配布する会員を決定しています）。募集要項および結果等の詳細については、随時協会ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

令和8年度におきましても、提供される機材の情報提供を行うべく準備を進めておりますので、各地域団体（支部）からのお知らせおよび協会ホームページをご確認ください。

応募に際し、必ず事前に協会ホームページ内の本事業実施要領および募集に係る注意事項をご一読、記載内容についてご了承いただいたうえで応募されますようお願いいたします。無抽選の場合を除き、同一年度内に一会員一機材限りの配付となります。また、前回の募集で同種機材の抽選に漏れた会員に限り、同種機材への優先倍率が適用（1回限り）されます。提供される機材により、残存減価償却費相当の有償機材であること、使用に際して修理を要する機材であること、特殊機械等の理由から高額な輸送費負担が生じる機材である場合があります。原則として抽選予定日以降のキャンセルはできませんので、熟考の上でご応募くださいますようお願いいたします。

今後も、JRA、JRAF ならびに JSS 関係者の皆様のご協力を賜り、ご提供いただける機材の情報収集に努めてまいります。

～2025年度 第1回 競馬関連機材等有効活用事業 抽選結果について 全10件

1. 機材名および取得者

通番	物件	台数等	主な用途	取得年	売却価格 (消費税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	トラック1.25t (W キャブ) ・美浦	1台	荷運搬用	2012年 (平成24)	¥300,000	3	1	0	2	関東
2号	四輪駆動車 (アウトランダー)・美浦	1台	作業用	2006年 (平成18)	¥46,860	18	3	3	18	関東
3号	軽自動車バン (エブリイ) ・美浦24-1	1台	作業用	初度登録 2011年 (平成23)	¥10,410	11	2	3	12	関東
4号	軽自動車バン (エブリイ) ・美浦26-2	1台	作業用	2014年 (平成26)	¥10,410	16	2	3	17	関東
5号	軽自動車バン (エブリイ) ・美浦26-3	1台	作業用	2014年 (平成26)	¥10,410	17	3	4	18	北海道
6号	軽自動車バン (エブリイ) ・美浦26-4	1台	作業用	2014年 (平成26)	¥10,410	16	3	4	17	関西
7号	馬道用アルミ柵 (アルミ製支柱・笠木)・美浦	約 1,500m	馬道柵	1975年 (昭和50)	無償	4	0	0	4	関東
8号	コース用アルミ柵 (アルミ製支柱・笠木)・美浦	約 2,500m	馬場柵	1975年 (昭和50)	無償	7	5	0	2	関東
9号	パワーハロー・栗東26-1	1台	ウッドチップ 整地	2014年 (平成26)	無償	11	2	2	11	関東
10号	転圧ローラー・阪神	1台	ダート転圧	1991年 (平成3)	無償	2	0	0	2	関東

※ 1～6号、8号、9号：要領第6条7項により選定の対象から一部会員を除外した。

※ 3号：要領第6条4項により補欠順位上位者を取得者と決定した。

※ 7号：応募者すべてが選定除外対象者であったため、要領第6条8項により取得者を決定した。

※ 10号：応募者すべてが別物件に当選したため、要領第6条8項により上位順位者の複数当選とした。

※ 優先倍率の適用について：前回初応募で同種機材の抽選に外れた取得希望会員に対し、今回の抽選に限り2個の玉を投入した。

2. 抽選実施方法等

- (1) 実施日時：2025年10月15日（水）13時30分 開始
- (2) 実施場所：当協会事務所内
- (3) 実施方法：抽選機による
- (4) 抽 選 者：和田 信也 副会長理事
- (5) 立会い者：五島 崇 監事

軽種馬経営高度化指導研修（人材養成支援）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化指導研修（人材養成支援）により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修事業をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

1. 生産育成技術者海外派遣研修事業

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の一部を補助金として交付するものです。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響による中断を経て2023年から再開した本事業は、長引く円安傾向や物価高騰により、経費が大きく増額すると見込まれたことから、2025年3月に補助率を7/10から9/10に改定（宿泊費は補助上限額を設定）し、参加者の負担軽減を図りました。

これにより、本年度事業については、長期研修は（公財）軽種馬育成調教センターから推薦のあった同センター第42期修了生1名を6月16日から9月7日までの日程でイギリスのThe British Racing Schoolに派遣しました。また、再開後も応募が最少催行人員に達しなかったため2024年度事業まで実施を見送ってきた短期研修は、会員への意向調査を実施し、その結果を踏まえ、時期および場所を見直した研修計画の策定により、21名の参加希望者がありました。面接等を経て参加者10名（北海道支部6名、東北支部2名、関東支部2名）を選抜し、9月24日～10月2日の日程で競走馬調教関係施設の視察等を目的にイギリス・アイルランドに派遣しました。

2. 修学奨励金交付事業

国内で軽種馬生産・育成の仕事に就く者を養成する目的で軽種馬関係機関が設置する研修施設で教育を受けようとする者のうち、意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業です。現在は（公社）日本軽種馬協会（JBBA）静内種馬場、（公財）軽種馬育成調教センター（BTC）および（公社）日本装蹄協会展蹄教育センターでの受講者に対し、審査のうえ交付しています。

なお、2025年11月までの承認件数は、合計9件でした。（2025年度受講者7件、2026年度受講予定者2件）

3. 生産育成牧場就業者参入促進事業

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。

「BOKUJOB 2025 メインフェア」および「BOKUJOB 2025 関西フェア」（詳細は特集ページをご覧ください）、日帰り見学会や滞在型体験会等のイベントの実施、競走馬生産・育成牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」による生産・育成牧場の求人情報や仕事内容等の情報発信を主な活動としています。

本誌第62号発行後から2025年11月までの間のBOKUJOBの活動状況は以下のとおりです。

1) 「BOKUJOB 2025 牧場で働こう見学会」

就業希望者やその保護者等を対象に、関東地区は3月8日に参加者34名（保護者等を含む）で、ビッグレッドファーム銚田トレーニングセンター様、KSトレーニングセンター様および松風馬事センター様のご協力をいただき、また関西地区は3月16日に参加者38名（保護者等を含む）グリーンウッド・トレーニング様、湖南馬事センター様、信楽牧場様およびノーザンファームしがらき様のご協力をいただき、日帰りでの見学会を実施しました。

2) 「BOKUJOB 2025 メインフェア」・「BOKUJOB 2025 関西フェア」

概要は、特集ページをご参照ください。

3) 「BOKUJOB 2025 研修コース合同見学会」

JBBA および BTC が実施する研修の受講検討者を対象に、7月17日～18日【A日程】、8月7日～8日【B日程】の2日程（1泊2日）で、計51名が両施設や研修の様子を見学するとともに、教官や研修生と交流する見学会を実施しました。

また、企業の新卒採用活動時期が早まっていることを踏まえ、研修受講の早期検討を促すことを目的

に、2027年4月以降の受講検討者を対象とした見学会を実施することとし、11月2日～3日に20名が参加して【C日程】を実施、さらに2026年1月29日～30日には【D日程】を予定しています。

4)「BOKUJOB 2025 牧場で働こう体験会」

7月27日～8月2日の日程で、ピクトリーホースランチ様、杵臼牧場様、笹島智則牧場様、谷川牧場様、中島牧場様およびオカモトファーム様にご協力いただき、牧場就業やJBBA・BTC研修受講を検討している参加者18名が、4日間の就業体験を行いました。加えて、この体験会では、研修施設の他、ビッグレットファーム様および社台スタリオンステーション様にご協力いただき施設の見学等を実施しました。

5)「BOKUJOB 2025 サポートデスク」等

本年は、「BOKUJOB メインフェア」の実施時期変更に伴い、春季の相談活動の補完を目的に、新たなJRA競馬場も加え、以下のとおりサポートデスクを設置し、牧場就業希望者に対する相談対応とBOKUJOB活動の広報を実施しました。

- ・4月12日～13日 JRA 中山競馬場
- ・4月19日～20日 JRA 福島競馬場
- ・5月17日～18日 JRA 東京競馬場
- ・7月12日～13日 JRA 小倉競馬場
- ・7月24日 御殿場市馬術・スポーツセンター（全日本高等学校馬術競技大会）
- ・8月5日～7日 ノーザンホースパーク（全日本高等学校馬術選手権大会）
- ・8月30日～31日 JRA 中京競馬場
- ・9月23日 JRA 宮崎育成牧場
- ・10月22日～23日 YCC 山梨県民文化ホール（日本学校農業クラブ全国大会）
- ・10月28日～11月2日 三木ホースランドパーク（全日本学生馬術大会2025）
- ・11月3日 JRA 栗東トレーニング・センター
また、JRAの馬産業人材確保施策（UMAJOB）との連携を図るため、以下のとおり「UMAJOB Fes」にBOKUJOB事務局員を派遣し、牧場就業および研修・進路に関する相談活動を行いました。
- ・5月24日～25日 UMAJOB Fes 東京（サナギ新宿）
- ・10月25日～26日 UMAJOB Fes 大阪（なんばCITY）

6)「BOKUJOB 2025 Web 相談会」・

「BOKUJOB 2025 Web フェア」

Web会議システムを使用したWeb相談会は、遠隔地の牧場就業希望者にも浸透していることから、参加牧場・団体の協力を得て通年で実施しました。また、秋季に実施していたWeb相談を集中的に行う「Webフェア」については、春季の相談活動の活性化を図るため、以下のとおりとしました。

- ・実施日 6月7日～8日
- ・相談参加者 58名（計216面談）
- ・参加団体 17牧場、5団体

7) 競走馬 生産・育成牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」等の運営等

コロナ禍以降、特に注力してきたWeb・SNSを活用したBOKUJOB活動の広報や牧場就業希望者向けの情報提供については、2025年も継続・拡大して実施しました。

2024年に制作した北海道の生産・育成牧場等で働く若者が仕事を通して成長していく姿に密着した映像コンテンツ『君を競走馬に～牧場で働く人々の夢～』が好評を得たことから、本年は第2弾として『君を競走馬に～牧場で働く人々の夢～ 2』を制作し、BOKUJOB YouTubeチャンネルでの配信やグリーンチャンネルでの放映により、牧場就業希望者への情報発信に活用しました。

また、広報活動の一環としてプロモーションビデオを制作し、JRAターフビジョンやグリーンチャンネルでの放映を行うとともに、2月に佐賀競馬場、4月に水沢競馬場で、7月には門別競馬場で協賛競走を実施し、BOKUJOBの認知向上に努めました。

なお、「BOKUJOB.com」では、全国の生産・育成牧場の求人情報を掲載（112件・11月5日現在）していますが、掲載は無料となっておりますので、まだ求人情報の掲載を行っていない会員におかれては、求人情報の掲載をご検討ください。ご利用をお待ちしております。

また、「BOKUJOB.com」では、牧場就業に興味を持つ若い世代を対象とした「BOKUJOB ブログ」も開設しております。生産馬の誕生や馴致開始等の牧場での仕事に関することや牧場の日常等、掲載内容は問いません。こちらも、ぜひご利用ください。

軽種馬生産者等経営安定化（飼料等高騰対策事業）

地方競馬全国協会（NAR）の競走馬生産振興事業新規補助事業として、令和5年度から実施されている事業です。（公社）競走馬育成協会は、昨年に引き続き、地方競馬全国協会（NAR）から当事業の実施主体としての承認を受けており、令和7年度についても、申請のあった有資格の正会員の皆様に給付金支給を実施しました。

本事業は安定化の兆しの見えない国際情勢や円安傾向の為替相場、加えて異常気象の影響も受けて、わが国内における競走馬の育成調教に必要な飼料・敷料、資材等の価格が高騰した状況が続いていることから、育成調教技術者の負担軽減の一助として、年度毎に給付金交付による支援を行うものです。

※令和8年度以降の実施については未定です。

※詳しくは、協会のホームページにてご確認ください。

お知らせ

BTC からのお知らせ

競走馬の育成・調教技術情報が満載

BTC NEWS



無料



♪ パソコン、スマホ、Webで
すぐに読めます！

https://www.b-t-c.or.jp/p300_03/

公益財団法人 軽種馬育成調教センター（BTC）

Racing Schedule 2026

払戻のご案内

- 「競馬開催日」は全国の競馬場・ウイズ等で払戻を行います。
- 「平日払戻サービス」の実施事業所日時につきましては、払戻カレンダー案内ページ等でご確認ください。
- 中券・返還券の払戻期間は「60日間」です。
- 払戻期限当日が「JRAの全国的な払戻休業日」にあたる場合は、翌払戻日に払戻を行います。
- JRAの競馬場・ウイズ等と「J-PLACE」の相互払戻・返還はできません。
- UMACAでの払戻金は自動チャージされ、残高の有効期限は、購入および入出金の最終利用日から5年間となります。

払戻カレンダー案内ページ
<https://jra.jp/kouza/haraimodoshi/>

JRAテレホンサービス

レース結果、払戻金、開催情報等(天候・馬場状態・開催中止)のお知らせ

TEL.050-3116-7700 (全国共通)

※プッシュホン・レース指定式です。

JRAインフォメーションデスク

中央競馬に関するご案内・お問い合わせ、「ギャンブル障害」に関するお問い合わせ

TEL.050-3536-0066

(全国共通) ※平日のみ

※月～金曜日(祝日・年末年始を除く) 10:00～17:00

※レース結果・払戻金等に関しては、上記「JRAテレホンサービス」をご利用ください。



© 25 SANRIO CO., LTD. APRIL NO. L655410

指定席・入場券ネット予約サイトの操作方法に関するお問い合わせ

- JRA指定席・入場券ネット予約お問い合わせデスク

0570-00-5178

10:00～18:00(年末年始を除く)

JRA-VANスマホアプリ、NEXT、DataLab.に関するお問い合わせ

- JRA-VANサポートデスク office@jra-van.jp

050-2031-3000

10:00～17:00(火曜日・競馬開催のない土日祝、年末年始を除く)

- JRA-VANホームページ

<https://jra-van.jp/>

グリーンチャンネルに関するご案内・お問い合わせ

- グリーンチャンネルお客様コール

03-5620-3344

平日(月曜日・金曜日)10:30～16:30 ※年末年始を除く

競馬開催日 9:00～17:00

- グリーンチャンネルホームページ

<https://www.greenchannel.jp/>

JRAレーシングビューアーに関するご案内・お問い合わせ

- JRAレーシングビューアーインフォメーションセンター

03-5721-2700

10:00～17:00(火曜日・競馬開催のない土日祝、年末年始を除く)

- JRAレーシングビューアーホームページ

<https://prc.jp/>

プッシュホン投票先電話番号

TEL.050-3116-7777

TEL.050-3810-7777

TEL.050-2017-7777

※プッシュホン投票の発売締切時刻は、発走時刻の5分前。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
月	日刊スポーツ賞 中山金杯(GⅡ)		1H		1R							↑	フェアリース(GⅡ)						京成杯(GⅡ)							アメリカCC(GⅡ)					1R
		スポニチ賞 京都金杯(GⅡ)											日刊スポーツ賞 シンザン記念(GⅡ)						日経新春杯(GⅡ)							アロキオンS(GⅡ)					2R
																									小倉北馬S(GⅡ)						
2	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	祝	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火
月		根岸S(GⅡ)																													2H
		シメロードS(GⅡ)																													
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
月																															
4	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
月																															
5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
月																															
6	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
月																															
7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
月																															
8	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	祝	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
月																															
9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
月																															
10	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
月																															
11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
月																															
12	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
月																															

2026年1月～2026年12月 ダートグレード競走一覧(実施日順)

実施日	曜日	回次	競走名	格付け	実施場	距離	競走条件	負担重量	備考
2026年1月21日	(水)	52	ブルーバードカップ	JpnⅢ	船橋	1,800	3歳	賞金別定	
2026年1月25日	(日)	31	プロキオンステークス	GⅡ	京都	1,800	4歳以上	グレード別定	実施場の変更:中京→京都
2026年2月1日	(日)	40	根岸ステークス	GⅢ	東京	1,400	4歳以上	グレード別定	
2026年2月11日	(祝水)	72	クイーン賞	JpnⅢ	船橋	1,800	4歳以上牝馬	ハンデキャップ	
2026年2月12日	(木)	53	佐賀記念	JpnⅢ	佐賀	2,000	4歳以上	グレード別定	
2026年2月18日	(水)	8	雲取賞	JpnⅢ	大井	1,800	3歳	賞金別定	
2026年2月22日	(日)	43	フェブラリーステークス	GⅠ	東京	1,600	4歳以上	定量	
2026年2月23日	(祝月)	28	かきつばた記念	JpnⅢ	名古屋	1,500	4歳以上	グレード別定	
2026年3月11日	(水)	71	ダイオライト記念	JpnⅡ	船橋	2,400	4歳以上	グレード別定	
2026年3月24日	(火)	28	黒船賞	JpnⅢ	高知	1,400	4歳以上	グレード別定	
2026年3月25日	(水)	49	京浜盃	JpnⅡ	大井	1,700	3歳	定量	
2026年3月29日	(日)	33	マーチステークス	GⅢ	中山	1,800	4歳以上	ハンデキャップ	
2026年4月1日	(水)	3	兵庫女王盃	JpnⅢ	園田	1,870	4歳以上牝馬	グレード別定	
2026年4月8日	(水)	75	川崎記念	JpnⅠ	川崎	2,100	4歳以上	定量	
2026年4月15日	(水)	37	東京スプリント	JpnⅢ	大井	1,200	4歳以上	グレード別定	
2026年4月18日	(土)	31	アンタレスステークス	GⅢ	阪神	1,800	4歳以上	グレード別定	
2026年4月29日	(祝水)	71	羽田盃	JpnⅠ	大井	1,800	3歳牡馬・牝馬	定量	
2026年5月2日	(土)	31	ユニコーンステークス	GⅢ	京都	1,900	3歳	馬齢	
2026年5月4日	(祝月)	26	名古屋グランプリ	JpnⅡ	名古屋	2,100	4歳以上	グレード別定	
2026年5月5日	(祝火)	38	かしわ記念	JpnⅠ	船橋	1,600	4歳以上	定量	
2026年5月6日	(休水)	27	兵庫チャンピオンシップ	JpnⅡ	園田	1,400	3歳	定量	
2026年5月13日	(水)	72	エンブレス杯(キヨフジ記念)	JpnⅡ	川崎	2,100	4歳以上牝馬	定量	
2026年5月23日	(土)	33	平安ステークス	GⅢ	京都	1,900	4歳以上	グレード別定	
2026年6月10日	(水)	72	東京ダービー	JpnⅠ	大井	2,000	3歳牡馬・牝馬	定量	
2026年6月17日	(水)	62	関東オークス	JpnⅡ	川崎	2,100	3歳牝馬	定量	
2026年6月24日	(水)	30	さきたま杯	JpnⅠ	浦和	1,400	3歳以上	定量	
2026年7月1日	(水)	49	帝王賞	JpnⅠ	大井	2,000	4歳以上	定量	
2026年7月8日	(水)	30	スパーキングレディーカップ (ホクトベガメモリアル)	JpnⅢ	川崎	1,600	3歳以上牝馬	グレード別定	
2026年7月20日	(祝月)	30	マーキュリーカップ (メイセイオペラ記念)	JpnⅢ	盛岡	2,000	3歳以上	グレード別定	
2026年7月26日	(日)	43	東海ステークス	GⅢ	中京	1,400	3歳以上	グレード別定	
2026年8月8日	(土)	31	エルムステークス	GⅢ	札幌	1,700	3歳以上	グレード別定	
2026年8月9日	(日)	18	レバードステークス	GⅢ	新潟	1,800	3歳	馬齢	
2026年8月11日	(祝火)	31	クラスターカップ	JpnⅢ	盛岡	1,200	3歳以上	グレード別定	
2026年8月13日	(木)	30	北海道スプリントカップ	JpnⅢ	門別	1,200	3歳	グレード別定	
2026年8月27日	(木)	38	ブリーダーズゴールドカップ	JpnⅢ	門別	2,000	3歳以上牝馬	グレード別定	
2026年9月1日	(火)	58	不來方賞	JpnⅡ	盛岡	2,000	3歳	定量	
2026年9月3日	(木)	26	サマーチャンピオン	JpnⅢ	佐賀	1,400	3歳以上	ハンデキャップ	
2026年9月22日	(休火)	46	白山大賞典	JpnⅢ	金沢	2,100	3歳以上	グレード別定	
2026年9月23日	(祝水)	37	オーバルスプリント	JpnⅢ	浦和	1,400	3歳以上	グレード別定	競走名称の変更:テレ玉杯オーバルスプリント→オーバルスプリント
2026年9月26日	(土)	30	シリウスステークス	GⅢ	阪神	2,000	3歳以上	ハンデキャップ	
2026年9月30日	(水)	73	日本テレビ盃	JpnⅡ	船橋	1,800	3歳以上	グレード別定	
2026年10月1日	(木)	30	マリーンカップ	JpnⅢ	船橋	1,800	3歳牝馬	定量	
2026年10月6日	(火)	23	レディズプレリウド	JpnⅡ	大井	1,800	3歳以上牝馬	グレード別定	
2026年10月7日	(水)	28	ジャンパダートクラシック	JpnⅠ	大井	2,000	3歳牡馬・牝馬	定量	
2026年10月8日	(木)	60	東京盃	JpnⅡ	大井	1,200	3歳以上	グレード別定	
2026年10月12日	(祝月)	39	マイルチャンピオンシップ南部杯	JpnⅠ	盛岡	1,600	3歳以上	定量	
2026年10月29日	(木)	29	エーデルワイス賞	JpnⅢ	門別	1,200	2歳牝馬	定量	
2026年11月3日	(祝火)	7	JBC2歳優駿	JpnⅢ	門別	1,800	2歳	定量	
2026年11月3日	(祝火)	26	JBCクラシック	JpnⅠ	金沢	2,100	3歳以上	定量	実施場の変更:船橋→金沢 実施距離の変更:1,800m→2,100m
2026年11月3日	(祝火)	26	JBCスプリント	JpnⅠ	金沢	1,400	3歳以上	定量	実施場の変更:船橋→金沢 実施距離の変更:1,000m→1,400m
2026年11月3日	(祝火)	16	JBCレディスクラシック	JpnⅠ	金沢	1,500	3歳以上牝馬	定量	実施場の変更:船橋→金沢 実施距離の変更:1,800m→1,500m
2026年11月8日	(日)	16	みやこステークス	GⅢ	京都	1,800	3歳以上	グレード別定	
2026年11月14日	(土)	31	武蔵野ステークス	GⅢ	東京	1,600	3歳以上	グレード別定	
2026年11月25日	(水)	47	浦和記念	JpnⅡ	浦和	2,000	3歳以上	グレード別定	
2026年11月26日	(木)	28	兵庫ジュニアグランプリ	JpnⅡ	園田	1,400	2歳	定量	
2026年12月6日	(日)	27	チャンピオンズカップ	GⅠ	中京	1,800	3歳以上	定量	
2026年12月13日	(日)	19	カベラステークス	GⅢ	中山	1,200	3歳以上	グレード別定	
2026年12月16日	(水)	77	全日本2歳優駿	JpnⅠ	川崎	1,600	2歳	定量	
2026年12月23日	(水)	49	名古屋大賞典	JpnⅢ	名古屋	2,000	3歳以上	ハンデキャップ	
2026年12月24日	(木)	26	兵庫ゴールドトロフィー	JpnⅢ	園田	1,400	3歳以上	ハンデキャップ	
2026年12月29日	(火)	72	東京大賞典	GⅠ	大井	2,000	3歳以上	定量	

賛助会員のご紹介

2025年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっていただきました各社をご紹介します。

有限会社 アスコットコーポレーション

代表取締役 加藤誠
Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177
〒300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

“馬の健康を第一に考えるサラLG”

株式会社 テイクオー

代表取締役 萩原早苗
Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2000
〒272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12
市川ガーデニア512

株式会社 市原商店

代表取締役 今泉治武
Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

ベルテック 株式会社

代表取締役 竹下晋二
Tel.06-6991-9875 Fax.06-6991-9876
〒570-0044 大阪府守口市南寺方南通3-11-10

株式会社 三和メック

代表取締役 天野公夫
Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413
〒321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

北海飼料販売 株式会社

代表取締役 勢戸俊雄
Tel.077-554-2468 Fax.077-553-2001
〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山127-1

株式会社 タイワ

代表取締役 長谷川和宏
Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7110
〒501-3822 岐阜県関市市平賀811
E-mail horsseshoe@taiwa-co.com

株式会社 渡辺商店

代表取締役 渡邊義昌
Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715
〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12

いくせい

2025 63号

発行日 2025年12月1日

発行 公益社団法人 競走馬育成協会

〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4

日本中央競馬会新橋分館4階

TEL 03(6809)1821 FAX 03(6809)1822

E-mail: ikusei@arr.or.jp

URL: <https://www.arr.or.jp>

編集責任者 和田信也

制作・編集 西谷印刷株式会社

※個人情報保護の観点から、本年より会員名簿の送付をしておりません。
協会のホームページをご覧ください。

